

令和元年12月4日

富良野市議会議長 黒岩岳雄様

市民福祉委員長 本間敏行

## 都市事例調査報告書

令和元年第3回定例会において、都市事例調査の許可を得た所管にかかわる事務について、下記のとおり事例調査を実施したのでその結果を報告します。

### 記

1. 調査地 札幌市、苫小牧市
2. 日程 10月17日～10月18日 2日間
3. 参加者 宇治則幸・日里雅至  
後藤英知夫・大西三奈子  
家入茂・本間敏行
4. 調査事項 男女共同参画の取り組みについて
5. 調査内容 別紙のとおり

= 別 紙 =

## 札幌市 概 要

石狩平野の南西部に位置し、市域は東西42.30キロメートル、南北45.40キロメートル、総面積は1,121.26平方キロメートルである。

明治2年の開拓使設置以来、北海道開拓の拠点として発展し続け、人口は令和元年10月1日現在、1,970,052人、世帯数は963,666世帯、北海道の人口の約3割が集中している。大正11年の市制施行以来、近隣町村との度重なる合併・編入により市域、人口が拡大し、昭和45年には人口が100万人を突破。昭和47年に政令指定都市に移行した。10ある行政区では、それぞれ地域の特性を生かした個性あるまちづくりが行われている。

気候は日本海型気候で、四季の移り変わりが鮮明である。年平均気温はおよそ8.9、年総降水量はおよそ1,100ミリメートルである。

### 札幌市の男女共同参画推進計画について

平成15(2003)年に第1次計画が策定され、現在、第4次計画を迎える「男女共同参画さっぽろプラン」は、市民が性別に関わりなく人権を尊重しつつ責任を分かち合い、それぞれの個性と能力を十分に発揮し、誰もがその利益を均等に享受することができる男女共同参画社会の実現を目指すことを目的としている。計画期間は平成30(2018)年度から令和4(2022)年度までの5年間である。

男女共同参画社会の実現に関する取り組みは幅広い分野に及んでいるため、全体的な推進とあわせて、特に重要な課題として「男女が共に働きやすい社会の推進」及び「女性に対するあらゆる暴力の根絶」について、的を絞って取り組んでいる。

### 札幌市男女共同参画センターについて

#### 1. 札幌市男女共同参画センターの概要

平成15(2003)年9月、札幌市の男女共同参画社会実現のための拠点施設として開設した。札幌駅北口に位置する民間ビル「札幌エルプラザ」内に、4つの公共施設(男女共同参画センター、環境プラザ、消費者センター、市民活動センター)が設置され、性別や属性に関わらず互いに人権を尊重し、責任を分かち合える社会を実現するための活動拠点として、指定管理者である公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会が管理運営を行っている。講座・イベントの実施、各種相談窓口を設置するほか、男女共同参画に関する諸活動の総合的な支援の一環として、貸室事業も行われている。

#### 2. 札幌市男女共同参画センターにおける取り組み

##### (1) 主な業務について

学習機会の提供、人材育成事業

##### ・子ども・若者のためのエンパワメント事業

若年層がジェンダー(性差)の課題について学ぶことで、自ら考え、行動するためのスキルや考え方を身につける。

・ ジェンダーイシュー（性別不平等）事業

SDGsなどをテーマに、分野を超えて市民活動団体や民間企業とともに、ジェンダーに関する課題を見える化し、課題解決の方法を考えている。

・ 男女共同参画ワークショップ事業

男女共同参画の大切さを理解してもらうため、出張形式で実施。楽しい体験を心がけ、男女共同参画の「気づき」を目指している。

相談事業

・ 女性のための相談窓口（総合相談・法律相談）

女性相談員による、女性の様々な悩みに対する相談窓口を設置。

・ SNS相談（ガールズ相談、わかもの&ガールズ相談、女性のためのLINE相談（北海道胆振東部地震での不安等に対応）LGBTライン相談）

SNS相談は、平成28(2016)年度より実施。特に、ガールズ相談は昨年度（実施期間14日間）で800件を超える相談が寄せられるなど利用件数は年々増えており、若者が相談しやすいツールは電話よりもSNSに移行している。

就労・企業支援事業

・ コワーキングスペース「リラコワ」の設置

起業を含めた柔軟な働き方を支援することを目的に運営。起業している女性が、自分の名刺と仕事の内容を紙に書いてボードに貼り付け、仕事を依頼する側とのつながりを作る演出がされている。起業準備中や小規模事業をスタートさせたばかりの女性も気軽に利用することができ、週一回、事前予約による無料の託児サービスも用意されている。自宅以外にも居場所があることで、安心して起業に向けた準備をすることができる。

・ 女性リーダー養成研修

女性活躍を進めたいと考える企業の女性社員を対象に実施。前年度に参加した受講者が、次年度ではサポートに付く「ギバー（与える人）」として参加するシステムを設け、女性リーダーのネットワーク構築も行われている。

普及啓発・情報提供事業

・ 「りふる」の発行

毎号、時勢に合ったテーマを設定し、情報発信している。

ネットワーク支援事業

・ 男女共同参画団体支援事業

市民団体が活動するための事務ブース（一区画4㎡、1万円/月）が用意され、レターケースも整備。低コスト、省スペースでの有効活用ができ、利用者からも好評である。

(2) 普及・啓発型事業から、課題解決型事業へのシフト

これまでの、男女共同参画の施策・課題などについて普及・啓発する事業から、女性・男性が抱える課題の解決を目指すために課題解決型事業へのシフトを行い、常に対話による女性のニーズの拾い上げが行われ、利用者の声を反映し、リピーターにつないでいる。課題の解決に向けて事業の内容が変化し続けており、様々な事業において、理想的なサイクルの中で利用者増を生んでいる。

### 3. 札幌市パートナーシップ宣誓制度について

互いを人生のパートナーとして、日常生活において相互に協力し合うことを約束した、一方又は双方が性的マイノリティである二人の関係をパートナーシップと定義し、その関係にある二人が札幌市長に対して宣誓する制度である。

近年の民間調査では性的マイノリティの方は人口の約8%いるとされ、その多くが深刻な困難を抱えている現状を踏まえ、平成29(2018)年6月、道内で初めて導入されている。これにより法的な権利や義務が生ずるものではないが、令和元(2019)年9月末現在で77組が宣誓を行っている。平成30(2019)年6月より、希望する方に対しパートナーシップ宣誓書受領カードの交付を開始している。

### 考 察

札幌市では、第4次男女共同参画さっぽろプランで決定したものを、業務の円滑な遂行に向けて指定管理による業務委託を実施している。指定管理者の取り組み姿勢とジェンダー主流化としての専門性が大変高く、スピーディな課題解決型を目指し、市民の暮らしに密着した事業内容を展開している。また、SNSを活用した若年層への取り組みとしてガールズ相談などの事業が活発であること、女性の暴力被害・貧困への対策を整えること、女性リーダーの養成に力を入れていることが印象的であり、女性活躍とジェンダー・イクオリティ(性別にとらわれないこと)を先進的に取り組まれていることは高く評価できる。

札幌市男女共同参画センターは立地条件も良く、情報収集、情報発信、情報共有ができる活動拠点として多くの市民が集い、新時代に向けて新価値を創造するまちづくりの基盤を作るための大きな役割を果たしている。

本市は10年前から男女共同参画推進計画を策定しているが、札幌市の推進状況を見ると、数段の違いを感じたところである。本市においても推進に向けた動きを活発化させたいが、人口規模や予算の面を考えると同様の体制を確保することは難しい。しかし、フェイスブックやLINEなどのSNSを活用していくことは、時代の流れとして必要な取り組みと考える。また、女性による相談や個別支援を通して、一人一人の支援を行うことにより、支えられる側から支える側へと、後に続く女性たちの出番を作るシステムが出来ている点も非常に参考になった。

今回、札幌市パートナーシップ宣誓制度の導入に関わってこられた当事者団体の方よりお話を伺った際、「個人的な感情で私たちの生きる権利を奪わないでほしいのです。」と言われたことが非常に印象的であった。また、日常生活における困り事の一つとして、性別で分かれているトイレの使用を挙げられ、今後、多目的トイレの設置が増えていくことを望んでいると伺い、本市でも性の多様性を尊重する方策の整備が必要になっていくと感じた。

今後の男女共同参画社会を更に推進するためには、多様性を認め合いながら、男女が共に働きやすい社会を形成していくことが必要である。本市として、更なる意識・理解の醸成のために、より継続的な啓発事業の取り組みと女性の就労・起業支援の必要性を強く感じた。

## 苫小牧市

### 概要

北海道の南西部、太平洋に臨み、市域は東西 39.9 キロメートル、南北 23.6 キロメートル、総面積は 561.57 平方キロメートルである。

市街地の北西方向には、世界でも珍しい熔岩円頂丘がある活火山の樽前山やカルデラ湖の支笏湖がある。昭和38年には国内初の内陸掘込港湾である苫小牧港が築かれ、臨海工業地帯を形成。紙・パルプ、石油精製、自動車部品などの産業が集積し、苫小牧港の内国貿易貨物量は全国一である。

気候は太平洋気候で、全般に温暖、冬期は降雪が少なく比較的晴れの日が多い。年平均気温はおよそ 7.7 、年総降水量はおよそ 1,220 ミリメートルである。

### 苫小牧市男女平等参画推進事業について

#### 1. 現在までの主な男女平等参画施策

- 平成19(2007)年 苫小牧市男女平等参画推進条例の施行
- 平成21(2009)年 苫小牧市男女平等参画基本計画（第2次）の策定
- 平成25(2013)年 苫小牧市男女平等参画都市の宣言（内閣府と共催）
- 平成26(2014)年 「女性センター」の指定管理運営開始  
（指定管理者：社会福祉法人 苫小牧市社会福祉協議会）
- 平成28(2016)年 「女性センター」を「男女平等参画推進センター」と改称、  
第3次計画に向けて小学生から大学生を対象とした男女平等参画  
に関する市民意識調査を実施
- 平成29(2017)年 「日本女性会議2017とまこまい」開催
- 平成30(2018)年 苫小牧市男女平等参画基本計画（第3次）の策定、  
「男女平等参画を推進する市民会議」の設置

#### 2. 男女平等参画の取り組みについて

昭和59(1984)年から、男女平等参画を推進する市民団体が市長及び市議会に対し、時代に応じた要望や陳情がなされていたことが、苫小牧市において男女平等参画を推進する大きな原動力となった。平成11(1999)年には市議会へ男女共同参画都市宣言を求める陳情がなされ採択。平成25(2013)年に北海道で初めての「男女平等参画都市」を宣言。

さらなる推進を図るために、担当部局を市民協働部から総合政策部に移管し、平成30(2019)年度からの5年計画である総合計画第6次基本計画より、これまで部門別計画の中にあった男女平等参画の推進が自治体運営の基本方針に格上げされ、総合計画の重点プロジェクトに位置付けされている。

苫小牧市には、DV（ドメスティック・バイオレンス）による被害を受けた女性の一時保護を行う民間シェルターもあり、連携を取りながら支援につなげているが、DV被害者は精神的な苦痛も大きいことから対応ハンドブックを作成し、相談者が窓口で何度も同じ話をしなくて済むように、ワンストップサービスでの対応を行っている。

## 【主な事業】

### 男女平等参画啓発事業

- ・男女共同参画週間パネル展示 ・男女平等参画都市宣言記念講演会

### DV防止啓発事業

- ・デートDV防止出前講座 ・公共施設トイレへの啓発リーフレット設置
- ・パープルライトアップ（内閣府事業） ・DV被害者シェルター支援事業

### ワークライフバランス等推進事業

- ・ワークライフバランス等企業表彰 ・官民合同セミナー

### 若年層への啓発

- ・苫小牧市の「男女平等参画都市宣言文」を小学校の社会科副読本へ掲載
  - ・小中学生向けリーフレットの作成・配布
  - ・デートDV防止出前授業（市内の中学校・高等学校等、全27校を対象）
- ### 審議会等委員への女性登用割合向上
- ・審議会等担当課からの働きかけ ・審議会等開催時における託児制度
  - ・女性人材バンク設置 ・女性人材バンク登録者研修
- ### 市民団体との共催事業
- ・男女平等参画推進講座 ・男女模擬議会
  - ・市民団体への支援（運営費補助、事務所等施設利用支援）
- ### 「男女平等参画を推進する市民会議」の設置
- ・市長が座長となり、市民団体代表、市議会議長、弁護士、社会保険労務士、企業（大企業、中小企業）の方など23名で構成。男女平等参画に関する情報交換や情報共有などを中心に、様々なまちづくりの課題を協議している。

### その他

- ・国際社会への取り組みとして、市庁舎7階の一角に国際交流サロン「GURURI World（ぐる～りワールド）」を設置し、ホストファミリーのための英会話教室などを開設。異文化交流によって多様性を認め合うことで、意識改革につなげていく。

## 3．現状での課題と最終的な目標

課題 無意識・無知・無関心  
気づき・考え・行動できる人材の不足

目標 関係人口の増加（＝苫小牧市に興味を持ってもらう）  
まちのブランド化（＝人口増）  
生き延びるための力（＝AIへの対応、コミュニケーション力を養う）

苫小牧市では、上記の課題は人権、貧困や人口減少などの問題にも共通していると捉えている。皆が他人事ではなく「自分事」として捉え行動することによって、まちが生き延びていく。身近にある課題の解消が、男女平等参画社会の実現へと繋がっていきと考えている。

## 苫小牧市男女平等参画推進センターについて

～設置の経緯と目的～

苫小牧市の勤労女性及び勤労者家庭の助成等の福祉の増進と教養の向上を図るとともに、いこいの場とすることを目的とし、昭和43(1968)年、「苫小牧市婦人ホーム」の名称で開館。平成6(1994)年、苫小牧市民活動センターの新設に伴い、名称を「苫小牧市女性センター」と改め、移転入居し、女性活動等の促進を図るための総合拠点施設とした。平成26(2014)年に社会福祉協議会による指定管理運営を開始、平成28(2016)年に「女性センター」から「男女平等参画推進センター」へ名称と機能を変更し、男女平等参画社会の推進を図る総合拠点施設とした。

男女平等参画推進センターにはキャリアコンサルタントを配置し、女性のための起業支援・相談、繋がり場の設けるための女性起業セミナーを実施しているほか、コワーキングスペースや貸出図書(NWEC)、子連れでも仕事ができるよう託児室の整備や無料保育日を設けている。無料Wi-Fi、スキャナやプリンタなども設置している。

## 考 察

苫小牧市は、男女平等参画の推進として取り組まれており、「平等」という言葉への強い思いを感じた。特に、早期からの意識づけが大切だという観点から学校側にもアクセスし、教育面での啓発に力を入れている。男女平等推進計画の中に、学校における男女平等教育の推進を盛り込み、文部科学省の学習指導要領に基づいた施策と苫小牧市独自の施策を推進している。

また、全中学校でデートDV防止の出前授業を導入し、デートDVについて中学生が100%学べる体制を整備していることや、学校独自でLGBTに関する授業を実施していることは重要な取り組みであり、男女平等参画を人権問題として捉えている点で大いに参考となった。

苫小牧市では、平成25(2013)年に男女平等参画都市宣言をしたことで、その後続く男女平等参画推進の施策を考える大きな契機となり、平成30(2018)年度からの総合計画第6次基本計画の重点プロジェクトにも位置付けされたことから、本腰の構えで推進されていることが理解できた。市長自らがアドバルーン的存在として、イベント等での男女平等参画社会への理解を広く内外に示すことも効果的であり、行政がしっかりとリーダーシップをとり、課題を洗い出し、身近なものから一つ一つ対応していくことが男女平等参画社会の実現に近づくものと考えた。

本市としては、男女共同参画推進条例の制定には市民の深い理解が必要であることから、今後もさらなる研究を進めると同時に、市民のコミュニティーの場となり得る施設の整備も視野に入れる必要があると感じた。

また、本市でも国際交流サロンを設けるなど、市民が国際的視野を持ってジェンダー平等を考える機会につなげていくことが大切であると感じた。